Lyonのトリセツ

コンピュータサイエンス学部 青木・佐々木研究室 北條海斗

目次

- ・Lyonの仕様
- ・WSLのインストール
- ·Docker構築方法
- ・Colabと同等環境を動かす方法
- ・Jupyterの実装方法

※本ドキュメントの画像・コマンドはソフトウェアの更新により 利用不能・変更となる場合があります。ご了承ください。

分からなければ手を上げて質問してください

Keyword: GPUServer

Lyonの仕様

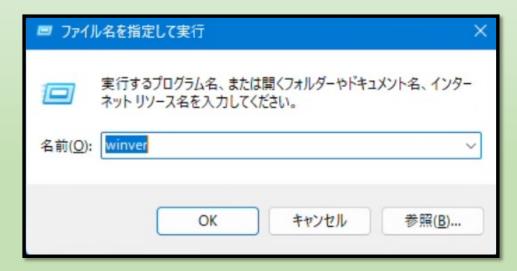
- それぞれ専用のユーザーが作成されている→各ユーザは自分のユーザフォルダ内でDockerを使ってシステムの構築を 行う
- ファイルの読み書きについて→ほかユーザのファイルは見ることはできるが書き込みができない。(注意)
- · VPNで使用可能
- ・管理者権限は有していない
 - ・管理担当アカウントに管理者権限は帰属.
 - ・個別でほしいライブラリがあれば、管理者まで(現状青木先生).

Keyword: Windows Subsystem for Linux

WSLのインストール

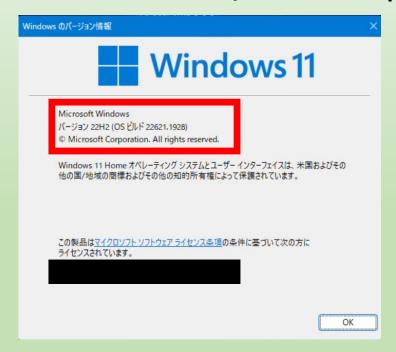
WindowsPCのバージョンを確認する.

- ・キーボードのWindowsキー+Rを押す
- ・ファイル名を検索して実行の部分に「winver」と入力
- ・Enterキーを押下



Windowsのバージョン情報を参照

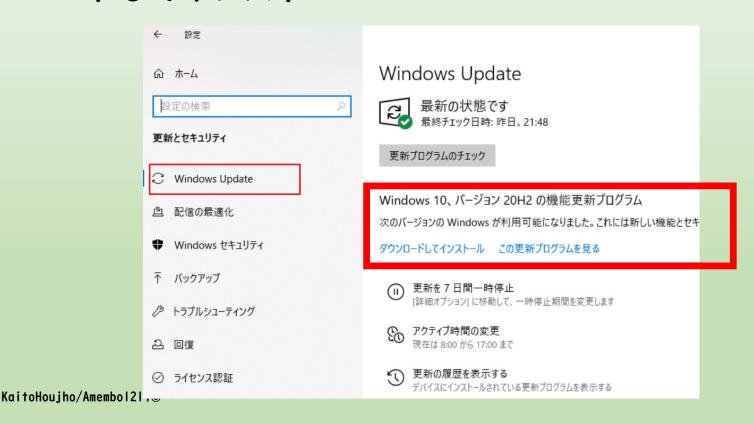
- ・WindowsバージョンがWindows IIもしくは
- ・Windows10-バージョン2004以上であることを確認



Keyword: Feature Update

Windowsのバージョンが低い場合

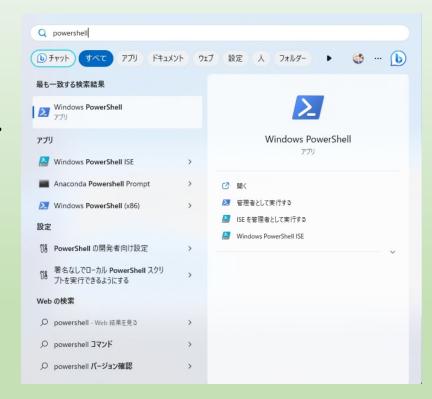
・設定>windowsUpdateから表示されているバージョンをダウンロードしてインストール



Keyword: commandprompt, shell, zsh, bash, sh

PowerShellを開く

キーボードのWindowsキーを押す 検索画面にpowershellと入力 一番上のやつを開く。



Keyword: zsh, bash, sh

PowerShellを開く.

- ・WindowsPowerShellが起動するのを確認
- ・以下のテキストが表示されることを確認



WSLをインストール

※すでにインストール済みの人はPI2以降を参照する

- ・コマンド「wsl --install」と入力
- ・画面に従ってPCを再起動する.

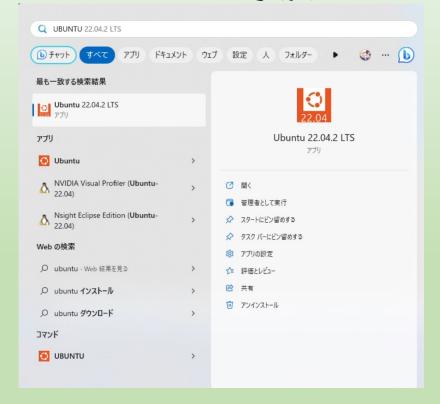
```
図 root@Dell-13th:~ × + マ ー ロ Windows PowerShell Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

新機能と改善のために最新の PowerShell をインストールしてください!https://aka.ms/PSWindows

PS C:\Users\kh> wsl --install Ubuntu は既にインストールされています。
Ubuntu を起動しています...
```

WSLの起動

・インストールしたUbuntuを起動する



Keyword: WSL2, GUIアプリ

すでにWSLがインストール済みの場合

Keyword: zsh, bash, sh

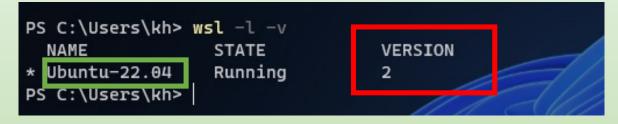
PowerShellを開く.

- ・WindowsPowerShellが起動するのを確認
- ・以下のテキストが表示されることを確認



WSLのバージョンを確認する

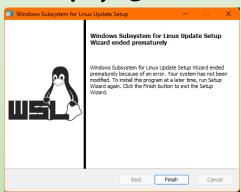
- ・PowerShellに「wsl −l −v」と入力し実行(Enter)
- バージョンの欄に注目する



- ・バージョンが2未満であればバージョンの更新を行う
- ・その際、変更したいディストリビューションのNameを覚えてお く(緑枠)

カーネルの更新

・WSLのカーネル更新プログラム
(https://wslstorestorage.blob.core.windows.net/wslblob/wsl_update_x64.msi)をダウンロードする



・セットアップウィザードに従ってインストール(Nextを押してくだけ)

Windowsの設定変更

- · PowerShellに戻り、以下のコマンドを入力→実行
- 「dism.exe /online /enable-feature /featurename:VirtualMachinePlatform /all /norestart」

PS C:\prec{2} dism.exe /online /enable-feature /featurename:VirtualMachinePlatform /all /norestart

展開イメージのサービスと管理ツールバージョン: 10.0.19041.1

イメージのバージョン: 10.0.19041.264

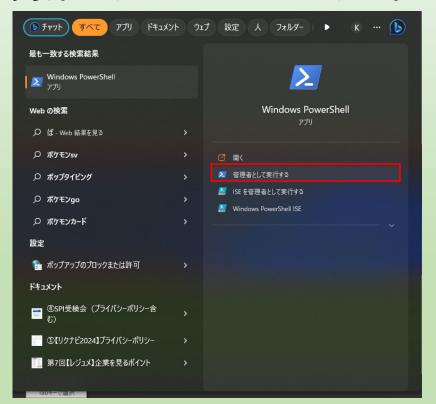
マシンを再起動する

- ・手段は問わない。
- ・普段の方法で再起動



PowerShellを管理者権限で開く.

・管理者として実行をするをクリックする。



Keyword: zsh, bash, sh

PowerShellを開く.

- ・WindowsPowerShellが起動するのを確認
- ・上記の画面が表示されることを確認。



WSLのデフォルトバージョンを変更

• PowerShellに「wsl --set-default-version 2」と入力

```
PS C:\Users\kh> wsl --set-default-version 2
WSL 2 との主な違いについては、https://aka.ms/wsl2
を参照してください
この操作を正しく終了しました。
PS C:\Users\kh>
```

・この操作を正しく終了しましたと表示されればOK

WSLの更新

- ・PI4で読みだしたディストリビューションの名前を利用
- PowerShell (

wsl --set-version ディストリビューション名 2を入力 今回の場合、「wsl --set-version ubuntu22.04 2」となる ※ディストリビューション名は、利用者によって異なるのでPI4 をよく確認する。

> PS C:\psi wsl --set-version ubuntu 2 変換中です。この処理には数分かかることがあります... WSL 2 との主な違いについては、https://aka.ms/wsl2 を参照してください 変換が完了しました。

変換が完了しましたと表示されればOK

仮想マシン機能が有効できなかった場合

WSLの更新はせずに、インストールされているものを利用してください

Windows の仮想マシン プラットフォーム機能を有効にして、BIOS で仮想化が有効になっていることを確認してください。 詳細については、https://aka.ms/wsl2-install を参照してください

Ubuntuを起動

- ・初期セットアップが終わるのを待つ
- ・画面に従いユーザー名とパスワードを決める

(自分の好きなやつでいいが必ず覚えるかメモる.)

```
Installing, this may take a few minutes...
Please create a default UNIX user account. The username does not need to match you
For more information visit: https://aka.ms/wslusers
Enter new UNIX username: ohtsu
Enter new UNIX password:
Retype new UNIX password:
passwd: password updated successfully
Installation successful!
To run a command as administrator (user "root"), use "sudo <command>".
See "man sudo_root" for details.
```

Keyword:パッケージマネージャー,apt

Ubuntuのライブラリを更新

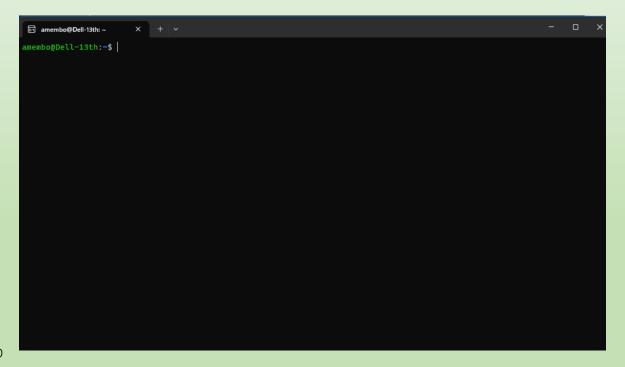
- ・先程起動したUbuntuに以下のコマンドを入力「sudo apt update && sudo apt upgrade -y」
- ・パスワードを聞かれるので先程決めたパスワードを入力

```
s amembo@Dell-13th:~ × + ∨ − □ ×

amembo@Dell-13th:~$ sudo apt update && sudo apt upgrade -y
[sudo] password for amembo:
```

Ubuntuのセットアップ完了

・ディスプレイにシェルの「\$」マークが出てれば完了



Lyonへの接続(共用VM)

Keyword:ホスト名,IPアドレス,DNS

Lyonのホスト名を探す.

·Lyon公式ページから、有効なホスト名を探す(なんでもいい)

http://lyonreport.cloud.cs.priv.teu.ac.jp/report.php

→今回はIyon001.cloud.cs.priv.teu.ac.jpをホスト名とする.

Lyon VM(共用)の情報

約5分おきにリソース情報を取得しています。ホスト名でsshでログインしてください。

操作万法やコマンドは<u>こちら</u>を参照してください.

ホスト名 vCPU使用率 RAM使用率 ディスク使用率 GPU使用率 GPU RAM使用率 lyon001.cloud.cs.priv.teu.ac.jp vCPU:1.0%/4vCPUs RAM:16.2%/16GB Disk:2.6%/16233GB GPU:0% GPU RAM:0.4%/8GB

Keyword: ssh, telnet

SSHのコマンドを決める.

共用VMの場合

ネットワーク利用ID:学籍番号+任意の文字列2文字

例:) c0b22999→c0b22999ff(事前に大学から交付済み)

ssh ネットワーク利用ID@ホスト名(P26参照)でログインする

例:) 「ssh c0b22999ff@lyon001.cloud.cs.priv.teu.ac.jp」

Keyword:ssh,telnet,公開鍵認証

先程決めたコマンドを入力

· Ubuntuのシェルに先程決めたコマンドを入力する.



ログインする.

- Enterを押してログインする.
- ・緑色の文字が入力前と変わっていればOK



Lyonへの接続(専用VM)

Keyword:ホスト名,IPアドレス,DNS

SSHのコマンドを決める.

Kaggle専用VMの場合 ssh 学籍番号@10.204.227.44 この場合ホスト名は10.204.227.44となる。 例:)「ssh c0b23999@10.204.227.44」

Keyword:ssh,telnet,公開鍵認証

先程決めたコマンドを入力

· Ubuntuのシェルに先程決めたコマンドを入力する.

This message is shown once a day. To disable it please create the /home/amembo/.hushlogin file.

amembo@RyNvidia:~\$ ssh kaito-houjho@10.204.227.44

ログインする.

- Enterを押してログインする.
- ・緑色の文字が入力前と変わっていればOK



【必須】パスワードの変更する1

はじめにログインするときは必ず変更を行う ログインしているユーザーのパスワードを変更する 「passwd」と入力し、Enterを押す →Current password:と表示されたらログイン時のパスワードを入力

kaito-houjho@ex002:~\$ passwd kaito-houjho 用にパスワードを変更中Current password:

【必須】パスワードの変更する²

- →New password:と表示されたら変更後のパスワードを入力
- →Retype new password:と表示されたら再度変更後のパスワードを入力 passwd: password updated successfullyと表示され、再度\$マークが表示されたら完了

```
amembo@RyNvidia:~$ passwd
Changing password for amembo.
Current password:
New password:
Retype new password:
passwd: password updated successfully
amembo@RyNvidia:~$ AA
```

Dockerのインストール|共用VM

Keyword: Docker, nvidia-docker

Dockerのインストール1

Dockerをインストールする。 | インストールから初期設定まで やってもらえる

\$tutcs-lyondocker-ldap.sh 条件にあったコマンドをそのまま入力

```
amembo@RyNvidia:~$
amembo@RyNvidia:~$
tutcs-lyondocker-ldap.sh
```

Dockerのインストール²

シェルの\$マークが出てきたら環境構築完了

```
[INFO] Installed docker.service successfully.
[INFO] To control docker.service, run: 'systemctl --user (start|stop|restart) docker.service'
[INFO] To run docker.service on system startup, run: 'sudo loginctl enable-linger kaito-houjho'

[INFO] CLI context "rootless" already exists
[INFO] Use CLI context "rootless"

Current context is now "rootless"

Warning: DOCKER_HOST environment variable overrides the active context. To use "rootless", either set the glo bal --context flag, or unset DOCKER_HOST environment variable.

[INFO] Make sure the following environment variables are set (or add them to -/.bashrc):

export PATH=/usr/bin:$PATH
Some applications may require the following environment variable too:
export DOCKER_HOST=unix://run/user/1005/docker.sock

kaito-houjho@ex002:-/data/git/nersument
```

Dockerのインストール | 専有VM

Keyword: Docker, nvidia-docker

Dockerのインストール

Dockerをインストールする。 | インストールから初期設定まで やってもらえる

\$tutcs-lyondocker-normal.sh 条件にあったコマンドをそのまま入力

kaito-houjho@ex002:~/data/git/nerfstudio/ devcontainer\$ tutcs-lyondocker-normal.sh

Dockerのインストール²

シェルの\$マークが出てきたら環境構築完了

```
[INFO] Installed docker.service successfully.
[INFO] To control docker.service, run: 'systemctl --user (start|stop|restart) docker.service'
[INFO] To run docker.service on system startup, run: 'sudo loginctl enable-linger kaito-houjho'

[INFO] CLI context "rootless" already exists
[INFO] Use CLI context "rootless"

Current context is now "rootless"

Warning: DOCKER_HOST environment variable overrides the active context. To use "rootless", either set the glo bal --context flag, or unset DOCKER_HOST environment variable.

[INFO] Make sure the following environment variables are set (or add them to -/.bashrc):

export PATH=/usr/bin:$PATH
Some applications may require the following environment variable too:
export DOCKER_HOST=unix://run/user/1005/docker.sock

kaito-houjho@ex002:-/data/git/nersument
```

Dockerを起動・停止

Keyword : systemctl

Dokcerの起動

コマンドをそのまま入力「dockerstart.sh」

kaito-houjho@ex002:

\$ dockerstart.sh

Dokcerの停止

コマンドをそのまま入力「dockerstop.sh」

kaito-houjho@ex002:

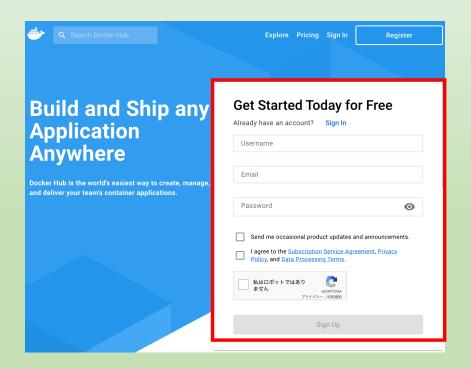
\$ dockerstop.sh

VMを使い終わったらこれを実行

Keyword: DockerHub

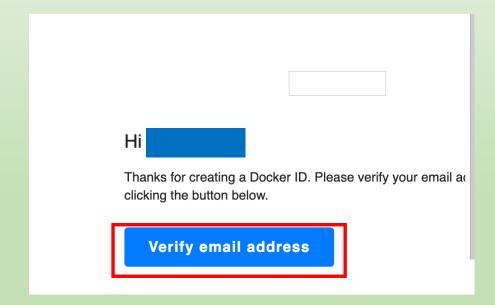
DockerHubのアカウント作成

DockerHubのアカウントを(https://hub.docker.com/)作成. ボックスに必要情報を入力しサインアップを押す



DockerHubのアカウント作成

- ・登録したメールアドレス宛に確認メールが送られる
- · Verify email addressを押下しメール認証を行う.



DockerHubにログインする

「docker login」
→先程入力したユーザー名とパスワードを入力してログインする

amembo@Dell-13th:-\$ docker login

Login with your Docker ID to push and pull images from Docker Hub. If you don't have a Docker ID, head over to https://hub.docker.com to create one.

Username:

Docker-Composeのインストール

Keyword: DockerCompose

DockerComposeのインストールする1

DockerComposeをインストールするフォルダを作りパスを通す・パスを追加する, bin直下に環境変数を通す「mkdir ~/bin && echo "export PATH=~/bin:\$PATH">>~/.bashrc」を入力する.

kaito-houjho@ex002:~/data/git/nerfstudio/ governments \$ mkdir ~/bin && echo "export PATH=~/bin:\$PATH">>~/.bas

DockerComposeのインストールする2

作成したフォルダにDockerComposeを追加する.

```
「curl -L "https://github.com/docker/compose/releases/download/v2.17.3/docker-compose-$(uname -s)-$(uname -m)" -o ~/bin/docker-compose」を入力する.
```

DockerComposeのインストールする3

先程インストールしたdocker-composeに権限をふる「chmod +x ~/bin/docker-compose」と入力

kaito-houjho@ex002:~/data/git/nerfstudio

\$ chmod +x ~/bin/docker-compose

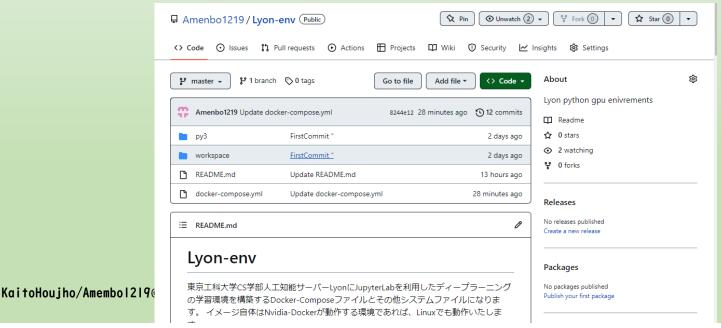
Colabのイメージを起動する

54

Colabと同等環境を動かす

システムのバージョン管理を行うシステム. 今回はコードを共有するためのツールとして利用.

https://github.com/Amenbol219/Lyon-env

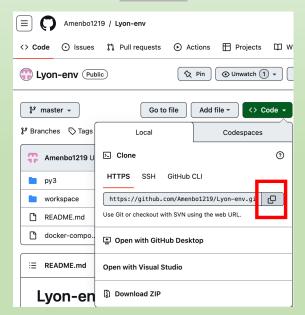


Gitを使って,環境を引っ張ってくる.

<u>https://github.com/Amenbol219/Lyon-env</u>のページに飛ぶ

- →<>Codeボタンを押す
- →Local>HTTPS>リンク> 🗗 を押してリンクをコピー





レポジトリをクローンする。

git clone コピーしたリンクをペースト する。 「git clone https://github.com/Amenbol219/Lyon-env.git」と 入力

```
amembo@RyNvidia:~/temp$ git clone https://github.com/Amenbo1219/Lyon-env.git
Cloning into 'Lyon-env'...
remote: Enumerating objects: 88, done.
remote: Counting objects: 100% (56/56), done.
remote: Compressing objects: 100% (43/43), done.
remote: Total 88 (delta 15), reused 48 (delta 13), pack-reused 32
Receiving objects: 100% (88/88), 88.12 MiB | 25.51 MiB/s, done.
Resolving deltas: 100% (16/16), done.
```

→\$マークが出てきたらクローン完了。

クローンしたファイルを確認

• 「cd Lyon-env」でフォルダの中に移動

```
amembo@RyNvidia:~/temp$ cd Lyon-env/
amembo@RyNvidia:~/temp/Lyon-env$
```

・「Is」でフォルダの中身を表示

```
amembo@RyNvidia:~/temp/Lyon-env$ ls

README.md docker-compose.yml py3 workspace
```

上記のようになっていることを確認する。

Keyword: vi, nano, Emacs

ポート番号を変更する。

「vi docker-compose.yml」と入力する
→エディタの編集画面が立ち上がる

```
services
   build
     context: ./py3
dockerfile: Dockerfile
   shm_size
   restart: always
   entrypoint >
     jupyter-lab
      --allow-root
      --ip=0.0.0.0
      --port=8888
      --no-browser
      --notebook-dir=/workspace
        ./py3/root_jupyter:/root/.jupyter
        ./workspace:/workspace
docker-compose.yml" 35L, 768B
                                                                                                              Top
```

Keyword:ポート番号

ポート番号を変更

・portsの下にある左の4桁の数字を好きな数字に変更する

```
# ここの左のボート番号を好きな値に設定
ports:
- "8888: 8888"
```

なるべく他の人と被らないような数字に変更する この変更した数字がPort番号となるので覚えておく。

イメージのビルドをする

「docker compose build」と入力



\$マークが表示されるまでしばらく待つ

Keyword: Docker run

イメージを起動する

「docker compose up -d」と入力しイメージを起動する

```
amembo@RyNvidia:~/temp/Lyon-env$ docker compose up -d
[+] Building 0.0s (0/0)
[+] Running 2/2

Network lyon-env_default Created
Container lyon-env-py3-1 Started
amembo@RyNvidia:~/temp/Lyon-env$

O.1s

0.9s
```

\$マークが表示されるまでしばらく待つ

Keyword: Token認証、パスワード認証

JupyterのTokenを確認する

「docker compose logs」と入力しイメージのログを確認するこのような画面が表示される

```
lyon-env-py3-1 | [I 2023-07-08 02:08:48.274 ServerApp] panel.io.jupyter_server_extension | extension was su
ccessfully linked.
lyon-env-py3-1 | [I 2023-07-08 02:08:48.302 ServerApp] notebook_shim | extension was successfully loaded.
lyon-env-py3-1 | [I 2023-07-08 02:08:48.302 LabApp] JupyterLab extension loaded from /usr/local/lib/python3
.8/dist-packages/jupyterlab
lyon-env-py3-1 [I 2023-07-08 02:08:48.302 LabApp] JupyterLab application directory is /usr/local/share/ju
pyter/lab
                    [I 2023-07-08 02:08:48.305 ServerApp] jupyterlab | extension was successfully loaded.
lyon-env-py3-1
                  [I 2023-07-08 02:08:48.311 ServerApp] nbclassic | extension was successfully loaded.
[I 2023-07-08 02:08:48.311 ServerApp] panel.io.jupyter_server_extension | extension was su
lyon-env-py3-1
 Lyon-env-py3-1
ccessfully loaded.
                   [I 2023-07-08 02:08:48.312 ServerApp] Serving notebooks from local directory: /workspace
[I 2023-07-08 02:08:48.312 ServerApp] Jupyter Server 1.24.0 is running at:
                   [I 2023-07-08 02:08:48.312 ServerApp] http://2a7f64d63d63:8888/lab?token=872bf3fbe9ad966d8
 lvon-env-pv3-1 | [I 2023-07-08 02:08:48.312 ServerApp] or http://127.0.0.1:8888/lab?token=872bf3fbe9ad966d
857f7bf6b2e25d1270dd0ab10a4a1fef
lyon-env-py3-1 | [I 2023-07-08 02:08:48.312 ServerApp] Use Control-C to stop this server and shut down all
kernels (twice to skip confirmation).
                   [C 2023-07-08 02:08:48.315 ServerApp]
 Lyon-env-py3-1
lyon-env-py3-1
                        To access the server, open this file in a browser:
lyon-env-py3-1
                            file:///root/.local/share/jupyter/runtime/jpserver-1-open.html
                        Or copy and paste one of these URLs:
lyon-env-py3-1
                            http://2a7f64d63d63:8888/lab?token=872bf3fbe9ad966d857f7bf6b2e25d1270dd0ab10a4a1fe
lyon-env-py3-1
lyon-env-py3-1
                         or http://127.0.0.1:8888/lab?token=872bf3fbe9ad966d857f7bf6b2e25d1270dd0ab10a4a1fef
amembo@RvNvidia:
```

JupyterのTokenを確認する

先程の出力から、http://....?token=....の部分を探すtoken=以降をコピーする(それがToken)

```
lyon-env-py3-1 | bttp://2a7f64d63d63:8888/lab?token=872bf3fbe9ad966d857f7bf6b2e25d1270dd0ab10a4a1fef

lyon-env-py3-1 | or http://127.0.0.1:8888/lab?token=872bf3fbe9ad966d857f7bf6b2e25d1270dd0ab10a4a1fef
```

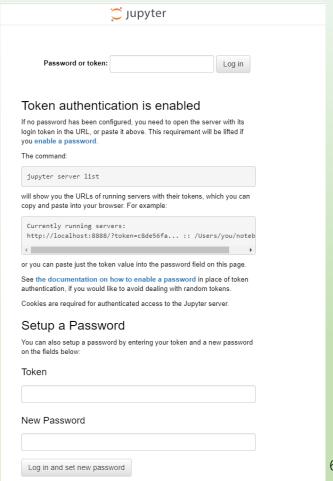
この出力の場合、 「872bf3fbe9ad966d857f7bf6b2e25d1270dd0ab10a4alfe」 がTokenとなる。

TokenからURLを導出

- ・先程SSH接続する際に利用したホスト名を用意する(P27, P32)
- ・先程設定したポート番号も用意する (P59)
- →今回はlyon001.cloud.cs.priv.teu.ac.jpをホスト名とする.
- 以下のルールでURLを導出する
- →http://ホスト名:ポート番号←これがURLとなる。
- 例:) http://lyon001.cloud.cs.priv.teu.ac.jp:8888

自分の決めたURLにアクセスする

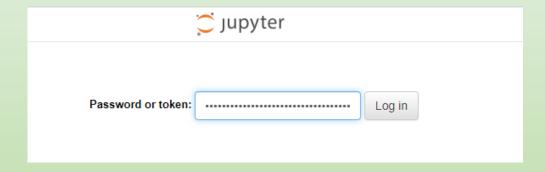
- ・ブラウザを起動
- ・アドレスバーにP64のURLをペースト このような画面が表示されればOK→



Keyword: Jupyter, JupyterNotebook, JupyterLab

JupyterLabにログインする

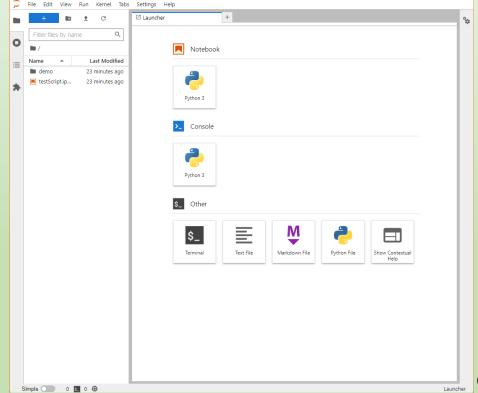
・先程のToken or Passwordの部分にP63で導出したTokenをペースト



ログイン完了

・とりあえずこの画面が出ればOK

お疲れ様でした。



実験終了後

- ・使用したコンテナを使わないときは落としておく必要がある。
- ・再びUbuntuに移動する。
- 「docker compose down 」と入力

```
amembo@RyNvidia:~/temp/Lyon-env$ docker compose down

[+] Running 2/2

Container lyon-env-py3-1 Removed

Network lyon-env_default Removed

amembo@RyNvidia:~/temp/Lyon-env$
```

両方RemovedになってればOK。

もっとDockerImageを活用したい

• https://github.com/Amenbol219/Lyon-envのReadMeにイメージ

関連の情報の記載あり

・興味があればぜひご一読を!

Lyon-env version:1.1a

東京工科大学CS学部人工知能サーバーLyonにJupyterLabを利用したディープラーニングの学習環境を構築するDocker-Composeファイルとその他システムファイルになります。 イメージ自体はNvidia-Dockerが動作する環境であれば、Linuxでも動作いたします。

Lvon公式ページ

Requirement

- GPUサーバー環境 (SSH接続でのログインを想定)
- Dockerシステムの環境構築済みであること
- DockerCompose環境

LyonにDockerを設定する | LyonクラウドVMの操作

LyonにDockerComposeをインストールする | 準備 (はじめに)

Installation

GitHubからシステムを取得する

git clone https://github.com/Amenbo1219/Lyon-env.git

Lyon-Envのディレクトリに移動する

cd Lyon-env

Docker-compose をビルドする

注意事項

共用環境の場合,ディスクを過剰に消費しないよう,以下の点に注意 してください.

- ・dockerを起動する必要がない場合は, dockerstop.shにてdockerプロセスを終了させてください. これをしないと, ログアウト後も残っています.
- ・コンテナやdockerイメージで不要なものがあればこまめに削除してください (contdel_7d.shやimdel_7d.sh等)
- ・ホームディレクトリで不要なものがあれば、こまめに削除してください.
- ・本Kaggle (専用VM) をKaggle道場以外の用途に使わないでください.

引用:

https://sites.google.com/edu.teu.ac.jp/cscloud#h.bnooodj595jg

[演習課題]専有VMに接続しよう!

- ・課題内容:専有VMに接続しJupyterを起動しよう
- ・ルール:
 - ・専用VMに接続しDemoスクリプトを動かす実行する。
 - ・わからないところは必ず質問する(友達と相談してもOK!)
 - 必ずパスワードを変更する
- ・ヒント:
 - ・Lyonの接続方法:P3I-
 - Dockerのインストール方法: P40-

接続情報

ホスト名:P3Iを参照

・ユーザ名:学籍番号

・パスワード:hogehoge(初回ログイン後、必ず変更すること)

お疲れさまでした